

JSOXの謎 その1

最近JSOXが導入されたことにより日本国内では多くの企業をご苦労されている様子です。JSOXというのは、米国のSOX (Sarbanes-Oxley Act) の日本版であります。

現在米国のSEC (Securities and Exchange Commission) つまり証券取引委員会では、NYSE (New York Stock Exchange) に上場している企業に対しSOXを遵守するよう指導しております。もしSOXを遵守しない場合、上場を取り下げられてしまいます。外国企業に関しましても、NYSEに上場している企業はSOXを遵守するよう義務付けられています。これは1929年の世界大恐慌でNYSEの株価が大暴落したことに学び、SECが上場している企業をそれ以来厳しく監視するようになったためです。

NYSEで上場するには、外国企業は財務報告書作成の際にUSGAAP (Generally Accepted Accounting Principles)、つまりアメリカ会計基準で作成するか、JGAAP (日本会計基準) で作成した場合、報告書をUSGAAPに修正する必要があります。

では、皆さんがよく耳にする国際会計基準とは何なのでしょう。USGAAPのことなのでしょうか。

国際会計基準とは、英語でIAS (International Accounting Standard) といいます。IASは米国の会計基準と異なり、EU (European Union) を中心としたIASB (International Accounting Standards Board) で決められた基準であります。以前IASBはIASC (International Accounting Standards Committee) と呼ばれていました。IASBはIFRS (International Financial Reporting Standard) つまり、国際会計報告基準をEUやその他の国に導入するよう働きかけている機関でもあります。合併後のドイツにいたりましては、国内のコンソリのレポートをGermanGAAP、つまりドイツ会計基準に従わず、IFRSまたはUSGAAPの基準で報告書を作成してもよいという法律を作っております。

日本に複式簿記が導入されたのは明治維新からであり、なんとイタリアで複式簿記が発明されてから600年も遅れての導入でした。戦前日本の商法は19世紀のFranco Germanyをモデルとしたものであり、従って当時日本の会計基準は税務が中心でコンソリやディスクロージャーに関しては特に注意を払っておりませんでした。しかし、第二次世界大戦後の米軍支配下の中でUSGAAPが導入され、財務報告基準及び会計基準の多くの点が修正されることにより、当時日本の会計基準はUSGAAPに近づきました。しかし、戦後しばらくして日本独特の会計基準へ発展いたしました。

1989年にはTSE (Tokyo Stock Exchange)、つまり東京株式市場の出来高はNYSE超えて世界一まで達しましたが、その年に日経の株価は39,000円から大暴落し、一時は3分の1の価格にまで下落しました。1994年には世界の6大銀行はすべて日本の銀行でしたが、1998年には日本の銀行は全く影を残しておりませんでした。1990年以降、それまで国際会計基準に無関心だった日本も興味を持つようになり、2001年頃までには日本独自の基準からUSGAAPやIFRSに近づき、その違いはほとんどなくなりつつあります。

前にも述べましたように、NYSEに上場している日系企業はUSGAAPで財務報告書を作成するか、またはUSGAAPへの修正を要求されます。しかし、NYSEに上場している日系企業は2005年の時点でたかだか20社弱でしたが、非上場の日系企業でも英文の財務報告書を作成している企業は数多くあります。

お気軽にwww.advantagepartnership.netまで御相談下さい。秘密は厳守致します。

